

令和5年度  
仙台二華中学校・高等学校

学校評価  
アンケート結果  
(2023年11月実施)

○調査対象

教職員

○質問への回答

1. そう思わない
2. あまりそう思わない
3. 大体そう思う
4. そう思う

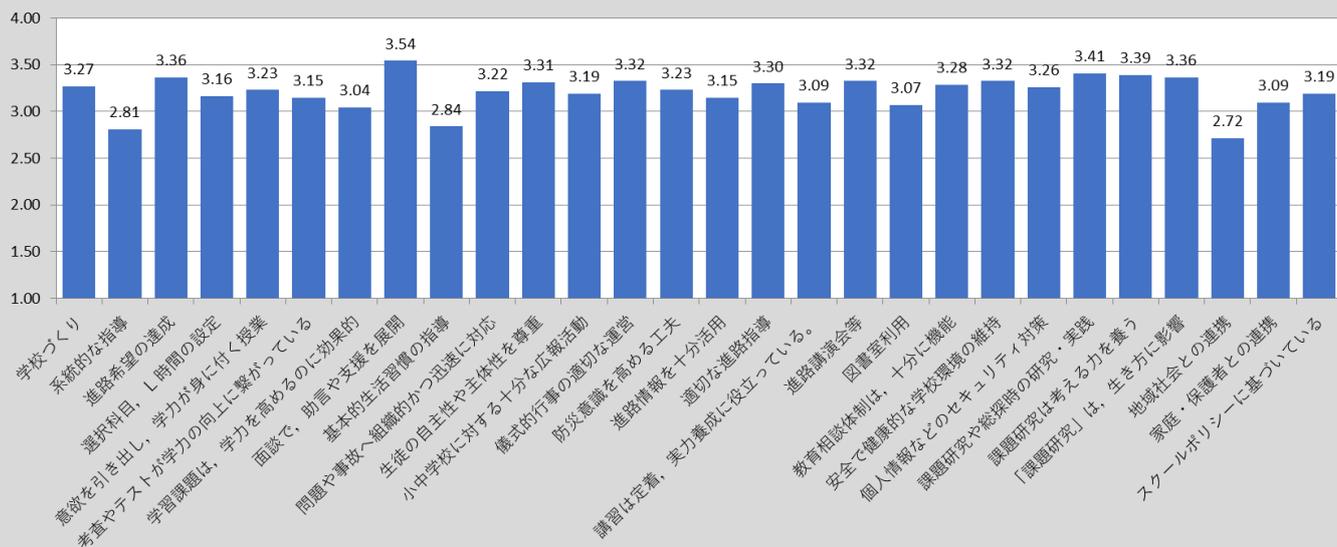
の4段階の適合度を見ています。(4が高評価)

○「高評価率」は3と4を合わせた回答数の全体に対する割合を示しています。

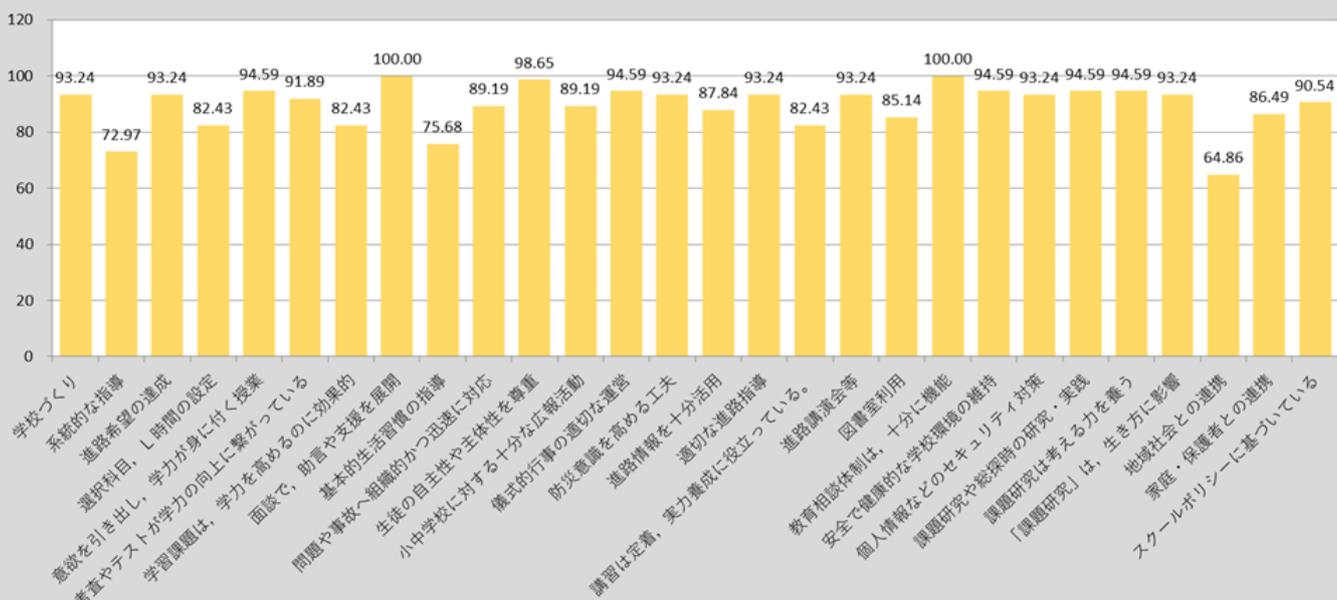
**学校評価質問項目 【職員】**

	質問内容	略記
1	教育目標や教育計画に基づいた学校づくりが行われ、「進取創造」「至誠貢献」の実現が図られている。	学校づくり
2	併設型一貫校として、中学校・高校間で情報共有と連携がなされ、6年間を見通した系統的な指導が行われている。	系統的な指導
3	6年間（高校3年間）の学校生活を通して、生徒の可能性を伸ばし、進路希望の達成に込めている。	進路希望の達成
4	6年間（高校3年間）の教育課程において、選択科目やL時間の設定は適切である。	選択科目、L時間の設定
5	生徒の学ぶ意欲を引き出し、学力が身に付く授業が行われている。	意欲を引き出し、学力が身に付く授業
6	定期考査・実力テスト・課題テストなどが生徒に十分にフィードバックされ、学力の向上に繋がっている。	考査やテストが学力の向上に繋がっている
7	日常的に与えている学習課題は、学習意欲や問題意識、学力を高めるのに効果的である。	学習課題は、学力を高めるのに効果的
8	「個人面談」などによって生徒ひとりひとりの状況の理解に努め、助言や支援を展開している。	面談で、助言や支援を展開
9	基本的生活習慣を確立するための指導が、優先課題として学校全体で取り組まれている。	基本的生活習慣の指導
10	問題や事故が起きた（起きそうな）場合、組織的かつ迅速に対応している。	問題や事故へ組織的かつ迅速に対応
11	学校行事やHR活動は生徒の自主性や主体性を尊重し、生徒相互の関係を深めている。	生徒の自主性や主体性を尊重
12	中学校訪問、学校説明会、オープンスクール、ホームページなどを通じ、小中学校に対し十分な広報活動を行っている。	小中学校に対する十分な広報活動
13	儀式的行事が適切に運営されている。	儀式的行事の適切な運営
14	避難訓練や実技演習等を通して、生徒・保護者・教職員の防災意識を高める工夫がなされている。	防災意識を高める工夫
15	「進路と学習」及びその他の進路情報は、職員と生徒に十分活用されている。	進路情報を十分活用
16	進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	適切な進路指導
17	高校3年生の課外講習、高校1・2年生の夏季や冬季の課外講習などは学習事項の定着や、進学のための実力養成に役立っている。	講習は定着、実力養成に役立っている。
18	進路講演会等を通して、学習活動へ意欲的に取り組めるような刺激や機会を与えている。	進路講演会等
19	図書館利用の指導が適切に行われ、読書活動が活発に行われている。	図書室利用
20	生徒・保護者・教職員への教育相談体制は、十分に機能している。	教育相談体制は、十分に機能
21	適切な保健指導・健康相談活動が行われ、安全で健康的な学校環境が維持されている。	安全で健康的な学校環境の維持
22	ネットワーク（PC ウイルス対策を含む）管理や個人情報などのセキュリティ対策は適切に行なわれている。	個人情報などのセキュリティ対策
23	「グローバルスタディ課題研究」や「総合的な探究（学習）の時間」のねらいに基づいた学習内容の研究・実践を進めている。	課題研究や総探時の研究・実践
24	「グローバルスタディ課題研究」や「総合的な探究（学習）の時間」は生徒の社会問題に対する関心、コミュニケーション能力、考える力などを養うきっかけとなっている。	課題研究は考える力を養う
25	「グローバルスタディ課題研究」や「総合的な探究（学習）の時間」で取り組んだことは、生徒の生き方に影響を与えていると思う。	「課題研究」は、生き方に影響
26	地域の特色や伝統を理解し、地域社会との連携が図られている。	地域社会との連携
27	生徒の課題やその支援について、家庭・保護者との連携が図られている。	家庭・保護者との連携
28	学校として、スクールポリシーに基づいた教育課程を編成・実施している。	スクールポリシーに基づいている

### 2023 職員 平均値



### 2023 職員 高回答率



○各項目で高い平均値となっている。

○「面談での生徒への助言や支援」「課題研究や総探時の研究・実践」「課題研究は考える力を養う」等の評価が高い。生徒に寄り添った指導を基に、進路希望実現に向けての手厚いサポート体制が整っている。また、課題研究や総合的な探究の時間では、生徒の課題解決能力が養われ、研究結果を校内だけでなく、外部の学会等でも発表するなど成果を上げており、適切な運営が行われていることもわかる。

○「系統的な指導」「基本的な生活習慣の指導」「地域社会との連携」は昨年、一昨年に続き評価が低い。併設型中高一貫校としての6年間を見通した指導について、あらためて全職員での共通理解が必要と考える。また、学校生活の基本と規律を遵守することの大切さを伝える指導を絶え間なく続けることと、地域資源の活用を、再度学校全体で検討しなければならない。